

竹取新聞

発行所
株式会社 カグヤ



第201版

理念と実践で 絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一義」の理念のもとに活動しているカグヤクルーの日々の出来事・内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

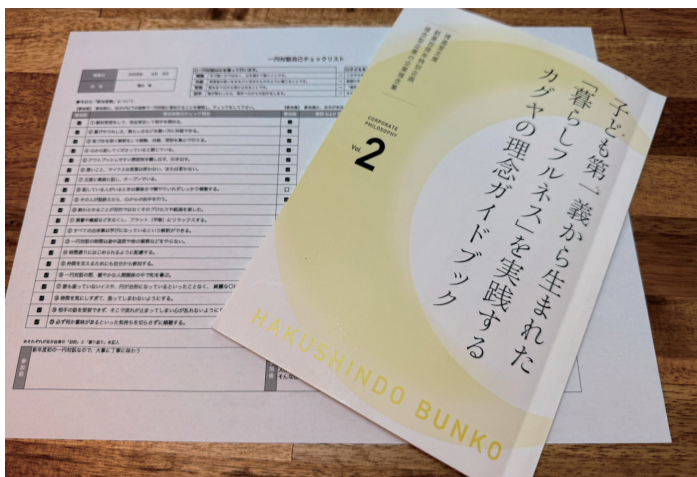
竹取新聞に関する皆様のご意見や
ご要望をお聞かせください！

ご意見箱



竹取新聞以外のご意見も
お待ちしております。
お電話やメールでもOK！

03-3518-6217
info@caguya.co.jp



理念で人を動かすのではなく、理念やマネジメントがそこで働く人々のお守りとなり、成長となるように時代に合わせて整えていくのは保育と共通することのように思います。

働きやすい園なのに、 なぜ理念が遠くなるのか

～これからの園経営に必要な「対話」と「環境設定」～

談ことが多いのです。

昔、三島由紀夫は未来の日本を物質主義で精神的本質と文化を失った未来としてこう預言しました。「日本はなくなつて、無機的な、からっぽな、中間色の、富裕な、抜けない、或る経済大国が極東の一角に残る」。あれから五十年以上が経ち、ある意味ではその言葉が当たっていると感じる場面もあるのかもしれない。

しかし、だからこそ諦めてはいけないとも思います。どんな時代であっても、その時代に合ったマネジメントを模索し、よりよい社会を子どもたちに残していく責任が私たちにはあります。

カグヤでは、理念の可視化、そして一人ひとりも初心の可視化を大切にしてみました。そして、それらをもとにした「一円対話」という対話の場を業務の中に環境として設けています。評価やアドバイスをする場ではなく、安心して自分の想いを語り合える場です。

これは、人が人を育てるといふ考え方だけに頼るのではなく、環境を通して人が育っていく仕組みをつくるうといふ試みでもあります。そしてこれは、子ども主体の保育の中にいる子どもたちそのものです。子どもたちは、子ども同士で学び合い、成長し合います。また、ゾーンやコーナーといった環境の中で主体的に育っていきます。



カグヤの理念ブックも博進堂様のお陰様で、内容の一部を出版させていただきました。

同じように、これからの時代は職員に対しても、そのような環境設定がより一層必要になってくるのではないのでしょうか。

カグヤでもまだまだ未熟ではありますが、こうした取り組みに助けられて今があるという実感は、年々強くなっています。子どもたちが互いに学び合い、成長し合うように、職員もまた互いの想いや初心を分かち合いながら育ち合っていく。そのような環境を丁寧に育てていくことが、これからの園づくりにとってますます大切になっていくのかもしれない。（眞田海）

今やりたいアクティビティ

4月になり、新しく職員さんを迎えられた園も多いのではないのでしょうか。今月はそんな4月に行いたい、お互いを知り合える「アクティビティ」をご紹介します。

（例）短所「せっかち」↓長所「仕事への取りかかりが早い」
④1つ書き換えたら左隣の人に廻っていきます。自分の紙が手元に戻ってきたら終了です。

「アクティビティ」は、競争ではなく協働的（コーポラティブ）な要素を取り入れた簡単なゲームのようなもので、そのあとに行う研修や会議でみんなの協力や協働を引き出しやすくする目的で行うものです。弊社でも毎週の「一円対話」や月に1度の会議冒頭に行い、協働を促す大切な取り組みとなっています。ぜひ皆様も準備運動を兼ねて行ってみてください！

こちらはお互いのことを知る機会になり、ネガティブをポジティブに変換する思考を鍛える機会にもなります。詳細はこちらから↓

■チェンジオーバー
まずは座ったままできるアクティビティのご紹介です。

■協力椅子取りゲーム
次は体を動かし盛り上がるものを。皆さんが知っている椅子取りゲームのルールを真逆にし、みんなで座れるよう協力するアクティビティです。詳細はこちらから↓

①1人1枚ずつ紙を配り、自分の「短所」だと思ふことを書き出します。
②書き終えたら自分の左隣の人に紙を渡します。
③受け取った人は「短所」の1つを「長所」に書き換えます。

今回は新年度に適したものをご紹介しましたが、他にも様々な場面でお使いいただける協働アクティビティを発信しています。左のQRコードより是非ご参照ください！
（眞田由莉）

【ミッション】
60秒以内にQRコード
3つ全てを読み取って
みてください！



近頃、お客様からのご相談が増えてるのが、職員マネジメントや園経営についての悩みです。働き方改革の流れの中で、残業を減らし、飲み会などの機会も減らし、業務の省力化も進めてきた。ブラック企業と思われないように、ハラスメントと言われないようにも十分に気を付けている。しかし、その結果、職員にお願いすることや踏み込んだ関わりが難しくなり、気がつけば保育の質や仕事の質が少しずつ下がっているように感じ

るといふ声を耳にします。職員は決して怠けているわけではありません。仕事はきちんとこなしているのです。ただ、どこか同じ方向を向いている感じがしない。仲間や子どもが心から喜んでいて姿が少なくなってきた。理念の実現には程遠くなってきた。最近二ユースで見える不適切保育の事件もいつか自園でおきるのではないかと危機感を感じる。そんな不安を抱えたご相

談ことが多いのです。昔、三島由紀夫は未来の日本を物質主義で精神的本質と文化を失った未来としてこう預言しました。「日本はなくなつて、無機的な、からっぽな、中間色の、富裕な、抜けない、或る経済大国が極東の一角に残る」。あれから五十年以上が経ち、ある意味ではその言葉が当たっていると感じる場面もあるのかもしれない。

カグヤでは、理念の可視化、そして一人ひとりも初心の可視化を大切にしてみました。そして、それらをもとにした「一円対話」という対話の場を業務の中に環境として設けています。評価やアドバイスをする場ではなく、安心して自分の想いを語り合える場です。

カグヤでは、それぞれが別々の場所においても、お互いの気持ちや様子をクルー同士はもちろん、皆様とも共有できるよう、毎日、ホームページでブログ配信しています。ここではその一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。

鯉のぼり

新年度がスタートし春の陽気に包まれていますが、来月5月5日にはもう「立夏」ということで、着々と夏が近づいていますね。そしてこの日は「こどもの日」「端午の節供（たんごのせつく）」。男の子の誕生と健康やかな成長を祝う日ということでも、園やご家庭でもお祝いをされる方が多いのではないのでしょうか。

ちょうどこの時期には青空を悠々と泳ぐ鯉のぼりを目にしますが、鯉のぼりを揚げるのは、江戸時代、男の子が生まれた印として幟（のぼり）を立てた武家をまね、粋な町人たちが和紙で作った鯉の幟を揚げたのが始まりだそうです。鯉は立身出世のシンボルで、鯉が滝を昇って竜になったという「登竜門」伝説に由来し、登竜門に向かった勇ましい鯉たちのように、鯉のぼりには「困難に揉まれながらも打ち勝って、将来大成しますように」という願いが込められているのだといえます。竜門を登ろうとたくさんの魚たちが挑戦し

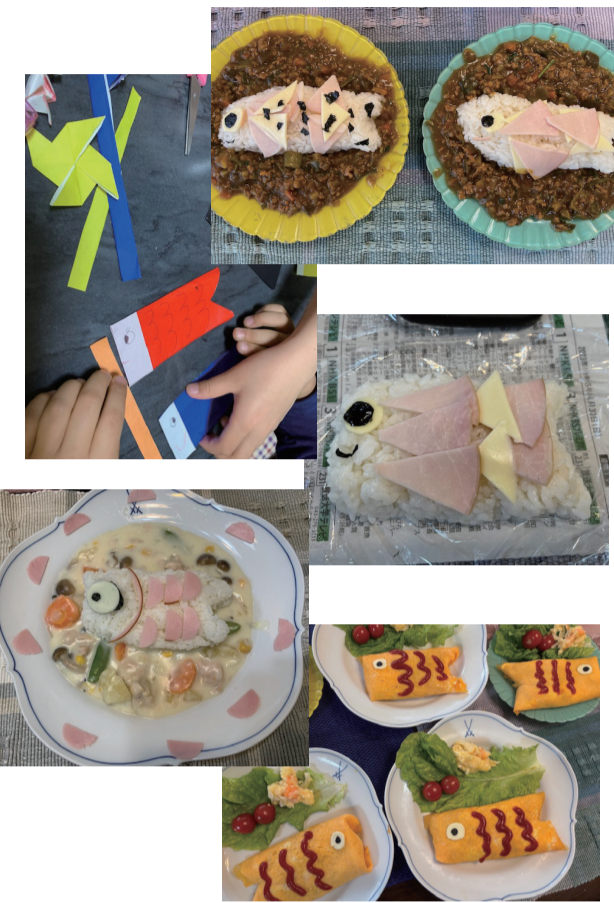


のびのび泳ぐ鯉のぼりに「気持ちよさそう!」と思っていましたが、困難の中で力強く美しく泳ぐ姿に、大切な教えを感じます。

た中で、鯉だけが登りきって竜になることができたため、鯉が立身出世のシンボルになり、縁起のいい象徴として大事にされてきたんですね。いつの時代も子どもたちの健やかな成長を願い祝う気持ちは変わらなく、その祈りが脈々と続いて今にいたっていることに感動をおぼえます。

そして、子どもの頃からそんな愛に溢れた行事を重ね幸せに過ごしてきた思い出は、その子にとってかけがえない宝物となり、その子が大人になっても力強く生きていく力になるのだと感じるからこそ、私自身も行事を楽しみ、幸せな気持ちと共に子どもたちへと大事に繋いでいきたいと思っています。（宮前奈々子）

我が家に鯉のぼりはありませんが、近年は「鯉のぼり」をモチーフに子どもたちとご飯をつくったり、折り紙で遊んだりしています！子どもたちと一緒に楽しめるのはとても幸せなひとときでもありますね。



変わらないもの

一期一会庵

光陰矢の如しと言いますが、毎日一生懸命に志に取り組んでいても、あっという間に歳月は過ぎていきま。気がつくくと社業は24年、自分の年齢はもう50歳を迎えました。

有難いことに歳月は多くの豊かさや出会いを与えてくださり、子どもたちを見守る保育もますます充実してきています。多くの方々に支えられ、助けられ、見守られてきたことにただただ感謝の気持ちが湧いてきます。

改めて節目に振り返ってみると、会社は変化の連続でした。特に東日本大震災やコロナの時の変化は著しく、働き方だけではなく生き方も変化する機会になりました。

変化には、変わらないものと変わるものがあるといわれます。また、変えていいものと変えてはならないものがあるともいわれます。数百年続いている日本の伝統的な老舗の研究を、会社のみならず数年間取り組んだこともありますが、どの老舗も「変化」のことをまず第一に語っておられました。

今、改めてその智慧と伝承を感じてみると「変わらないもの」とは「変わり続けるということ」だと実感します。つまり変わり続けることが変わらないことであり、「変わることは自然なこと」という意味です。

自然体で自然の循環に沿って変化し続けることは、まるでむかしの日本にあるようなお天道様と一緒に子どもたちの健やかな成長を見守ることと似ています。どの成長も必然であり、その時々々に最期までそれぞれ新たな役割をいただいで、助け合い仲睦まじく手を取り合って生きて暮らしていくことです。

子どもたちにとっての平和な世の中がいつまでも続いていけるように、自然のあるがままに時を味わい刻を楽しんでいきたいと思っています。（野見山広明）



編集後記



今年は「食」からも行事を楽しみたいと思います！

年度末、進級を控えた息子が「もうすぐパンダさんなんだ〜」（3歳児クラスに進級する意味）と嬉しそうに話していました。週に一度体操服での登園になることや、年上のお兄さん・お姉さんと一緒にお昼ご飯を食べることなど、少しずつ新しい生活にも慣れてきてい

る様子です。自分でできることが増え、その姿に頼もしさを感じています。端午の節供に込められた願いのように、成長を見守っていかれたらと思っています。新年度は何かと慌ただしく、疲れも出やすい時期かと思えますので、皆様どうぞご自愛ください。（奥山卓矢）

カグヤは「子ども第一義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます



ライトハウス(灯台)
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17
東京堂神保町第3ビルディング8階
tel.050-1744-8823
fax.03-3518-6218

カグヤウェブセンター
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17
東京堂神保町第3ビルディング8階
tel.03-3518-6217
fax.03-3518-6218

働き方と暮らし方の一致
暮らしフルネスについて

